



## 12 | 6、7

コロコロ、コロコロ、  
丸いお餅ができたよ！

12月6日にコミュニティプラザ、7日にトナムコミュニティセンターで、ふれあいもちつき会が開催されました。  
地域のお年寄りや村内の保育園児と一緒に、きたてのおもちを丸め、おいしくお雑煮をいただきました。  
子どもたちも小さい杵と臼でもつきを楽しんでいました。



## 12 | 13

大勢でする食事は  
楽しいよ♪

12月13日、クリスマスふれあい昼食会が占冠村コミュニティプラザで開催されました。  
昼食の前に、駐在所の木野巡査から「振り込め詐欺」や「交通安全」のお話を聞いた後、軽く体を動かしたり、ゲームをしたり楽しみました。その後、参加者は、会話をしながら昼食をいただいていた。

# 村の で来 出き 事

村内の出来事、  
話題をお届けします



## 保護司退任の長谷川さん に法務大臣感謝状

保護司を任期満了で退任した長谷川耿聰さん（本通）に法務大臣感謝状が贈られました。  
長谷川さんは、昭和61年12月占冠村役場に職中に保護司に就任し、平成24年12月に退任されるまで26年間保護司の活動を続けてこられました。大変お疲れ様でした。

## ★地域高規格道路旭川十勝道路の整備

地域高規格道路旭川十勝道路は占冠村と旭川市を結ぶ道路で、旭川十勝道路整備促進期成会（会長富良野市長 能登芳昭）が建設促進を要望している一般国道です。

整備区間として富良野市と中富良野町は工事が進んでいます。占冠村と富良野市間は計画路線であり、調査区間指定に向けて国並びに北海道に要望しています。

10月29日、富良野市、南富良野町、占冠村の正副議長と首長による会議が開催され、早期着工のため国道237号の現道を利用した地域高規格道路として、来年度以降要望することになりました。

## ★村立診療所の医師

村立占冠診療所並びに村立トマム診療所長の山口契医師と本年5月から契約の更新に係る協議を行ってまいりましたが、去る12月6日に最終協議を行い、雇用契約を1年間延長する合意書を交わしました。

山口医師は熱心な診療と優しい人柄で村民からの信頼が厚く、診療所経営にも多くの助言や、救急隊など関係機関、村民に向けて勉強会や健康教室を開催するなど幅広い活動をされています。

## ★道の駅敷地内の私有地

道の駅「自然体感しむかつぶ」敷地内にあります私有地については、札幌市在住の地権者のご好意により、平成10年5月から無償で花壇として使わせていただいております。

村ではこの土地の購入について話し合いを続けてきましたが、一昨年度地権者が亡くなられ、相続が未了のため売買契約には至っていません。

これまでの経過を踏まえ相続人からの委任状を添えて代理人を定め、正式な契約に切り替えることが賢明であるとの判断をし、去る11月1日付けをもって「土地賃貸借契約」を締結しました。

この土地の必要性に鑑み、購入に向けた話し合いを続けてまいりたいと考えています。

## ★占冠村商工業等消費振興活性化事業（プレミアム商品券発行事業）

制度上の問題点があるとして取り組みを検討していたプレミアム商品券発行事業については、事業主体の占冠村商工会において改善策がまとまり実施することになりました。

## ★東日本大震災被災地行政視察

10月22日から10月25日にかけて東日本大震災被災地の行政視察を行いました。

視察の目的は、被災の状況や復興の状況を視察するほか避難者のコミュニティの状況等について見聞することでした。

仮設住宅のコミュニティは、1年半が経過し不満やストレスが蓄積している状態で、ボランティアが定期的に集会を開き心のケアを行っているのですが、引きこもって出たがらない人、また支援を受けるのが当たり前に考えるようになり、働く意欲をなくし、飲酒やパチンコに埋没する人が増えているのが現状のようでした。

集落を中心に移転した仮設住宅はコミュニティが作られています。が、抽選移転した仮設住宅のコミュニティは難しく、町内会長の方針によっても差があるとのことでした。

防潮堤建設の賛否を聞く機会もありました。国や県は、住民の安全安心のために今回の津波を参考に防潮堤の建設を提案しています。が、反対住民は防潮堤が建設されると、心のより所である原風景が失われることや、海岸沿いの死亡者は殆んどいないことから、ハード事業ではなくソフト事業の充実を優先すべきとの意見が出されて



いました。

地方自治の必須条件は一体感、信頼感、共益感、熟成感、涵養性と言いますが、被災地においてはどれも十分とはいえず、元に戻るには長い年月がかかるものと思います。

本村といたしましてはこのような事態にならないよう、防災についてはあらゆる角度からの対策が必要と感じました。

駆け足で回ってきましたが、復興がようやく始まった地域、始まっていない地域があり、震災の爪痕の大きさ、人々の心のケアの難しさを強く感じた行政視察でした。

被災者のご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を願う気持ちでいっぱいです。